

## 武雄市公共施設等個別施設計画(全体編)の一部改訂(案)の概要

### 1. 武雄市公共施設等個別施設計画(全体編)について

本計画は、「武雄市公共施設等総合管理計画(平成29年3月策定)」に基づき、武雄市の公共施設について将来の方向性等を明らかにするために令和2年8月に策定。

計画期間は、令和8年度まで。

### 2. 武雄市文化会館大ホール棟の方針の見直しについて(詳細別紙資料参照)

現在、武雄市文化会館は新文化交流施設エリア整備基本計画に基づき、新たな文化交流施設エリアとして、令和9年春頃の開館を目指し整備を進めています。

現個別施設計画における文化会館大ホール棟の方向性については、耐震補強等の施設改修実施による長寿命化の方針でしたが、近隣類似施設整備状況の変化による利用率低下や物価高騰による事業費増加の見込み等により、大ホール棟の方針について一旦立ち止まり見直しを行いました。

### 3. これまでの経過と今後の予定

R7.1	武雄市個別施設計画市民会議
R7.1.22 ~2.14	関係団体意見聴取(文化団体、サークル団体、文化会館運営審議会、校長会 ほか)
R7.2	庁内アセットマネジメント検討委員会
R7.3	行政改革推進本部会議
R7.4	市議会・委員会報告
R7.5~6	パブリックコメント
R7.6(予定)	計画一部改訂

## 計画一部改訂(案)の内容

### 文化施設の評価の見直し(文化会館大ホール棟)

- ・大ホール棟の評価基準年、評価指標数値の見直し  
(経費、利用者数、1㎡あたりコスト、1人あたりコスト、施設利用(イベント)回)
- ・活用度評価点の変更： 80⇒40
- ・評価分類の変更：改修・更新⇒廃止

### 文化施設の方向性を見直し(文化会館大ホール棟)

- ・基本方針：長寿命化等⇒施設量適正化
- ・実施方針：長寿命化 ⇒廃止
- ・内容：施設の老朽化に加えて、近年周辺市町に同規模程度の機能を有する施設が開館しており、稼働率の低下が見込まれるため除却処分を行う。大ホールが担ってきた役割については、文化施設に限らず公共施設を活用し必要に応じ機能強化を図り対応する

## ○武雄市公共施設等個別施設計画（全体編）の一部改訂（案）

### 2 文化施設の評価

各施設の評価及び現況等は次のとおりとなった。

#### 〈改訂前〉

2018 年基準

種類	施設名		構造	建設年度		経過年数	A 耐用年数		面積 (㎡)	B 経費(円)		C 利用者数(人)		D 1㎡あたりコスト(円)	E 1人あたりコスト(円)		F 施設利用(イベント)(回)		性能					活用度 評価 4項目 平均点					
				西暦	和暦		耐用年数	耐用残年数		H30	平均	H30	平均	H30	H30	平均	H30	平均	性能										
				100	60														20	20	20	20	20		20	20	20	20	20
文化施設	文化会館	大ホール棟	RC4	1974	S49	44	50	6	5,387	48,018,114	26,687,093	82,310	44,311	8,914	583	601	80	130	20	60	20	60	60	44	100	100	60	60	80

点数	耐震基準への適合	老朽化の状況	設備改修の必要性	バリアフリーへの対応	避難所機能	性能評価	類似施設状況	施設利用度	利用者一人当たりのコスト	イベント利用度	活用度評価
100	適合	問題なし(耐用年数の期間の1/2未満)	無	対応	重要	5項目平均点	なし	多い	安い	多い	4項目平均点
60	対策中または対策予定	対策が必要(耐用年数の期間内で1/2以上)	一部必要	一部対応	利用できる		一部の機能あり	普通	普通	普通	
20	対策が必要	老朽化が進行(耐用年数を過ぎている)	必要	未対応	利用できない		あり	少ない	高い	少ない	

\*各平均（大ホール棟、小ホール棟、北方文化ホール）の項目について平成30年度の数値で算出



#### 〈改訂後〉

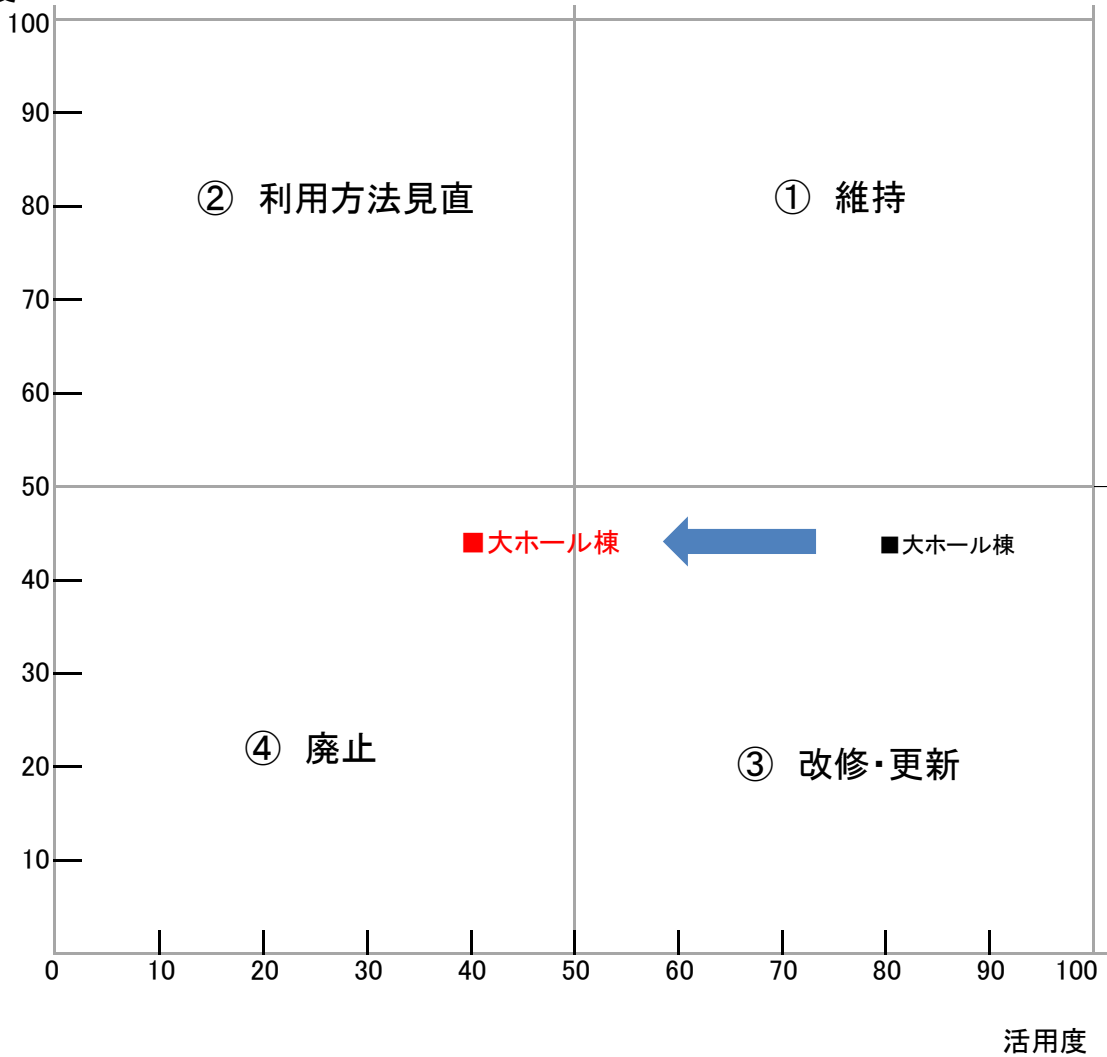
2023 年基準

種類	施設名		構造	建設年度		経過年数	A 耐用年数		面積 (㎡)	B 経費(円)		C 利用者数(人)		D 1㎡あたりコスト(円)	E 1人あたりコスト(円)		F 施設利用(イベント)(回)		性能					活用度 評価 4項目 平均点					
				西暦	和暦		耐用年数	耐用残年数		R5	平均	R5	平均	R5	R5	平均	R5	平均	性能										
				100	60														20	60	20	60	60		20	60	20	20	20
文化施設	文化会館	大ホール棟	RC4	1974	S49	49	50	1	5,387	56,976,817	31,685,803	28,270	27,692	10,577	2,015	1,227	64	128	20	60	20	60	60	44	60	60	20	20	40

\*各平均（大ホール棟、小ホール棟、北方文化ホール）の項目について令和5年度の数値で算出

評価分布  
性能度

文化施設



〈改訂前〉

施設名	現況	環境に関する情報
大ホール棟	昭和49年建設で非耐震。全体空調のため、個別利用の要望に応えられず、館内の温度調整が難しい。ホワイエ、楽屋廊下で雨漏りあり。音響、照明、舞台設備の点検で多数の指摘事項がある。	近隣に同規模のホールがないため、コンサートなど大規模な集客イベントに利用されている。



〈改訂後〉

施設名	現況	環境に関する情報
大ホール棟	昭和49年建設で非耐震。全体空調のため、個別利用の要望に応えられず、館内の温度調整が難しい。ホワイエ、楽屋廊下で雨漏りあり。音響、照明、舞台設備の点検で多数の指摘事項がある。	近年周辺市町に同規模程度のホールが開館しており、コンサートなど大規模な集客イベントが大きく減少している。それに伴い稼働率についても低下している。

文化施設の方向性について（対策内容と実施時期）

〈改訂前〉

文化施設の今後の方向性については、次のとおりとする。

種類	施設名		構造	面積 (㎡)	設置年	耐用年数	更新期	残年数		年間 利用者 (人)	年間 維持費 (千円)	方向性		内 容	対策の実施時期 (前期=～R3年度・ 後期=R4～R8年度)
								R3年度	R8年度			基本方針	実施方針		
文化施設	文化会館	大ホール棟	RC4	5,387	1974	50	2024	3	▲ 2	82,310	48,018	長寿命化等	長寿命化	文化会館エリアについては全体的な整備計画を策定し、実施方針を決定する。 近隣に同規模の機能を有する施設がないため、耐震補強工事をはじめとして長寿命化に必要な改修を行っていく。	後期



〈改訂後〉

文化施設の今後の方向性については、次のとおりとする。

種類	施設名		構造	面積 (㎡)	設置年	耐用年数	更新期	残年数		年間 利用者 (人)	年間 維持費 (千円)	方向性		内 容	対策の実施時期 (前期=～R3年度・ 後期=R4～R8年度)
								R3年度	R8年度			基本方針	実施方針		
文化施設	文化会館	大ホール棟	RC4	5,387	1974	50	2024	3	▲ 2	28,270	56,977	施設量最適化	廃止	施設の老朽化に加えて、近年周辺市町に同規模程度の機能を有する施設が開館しており、稼働率の低下が見込まれるため除却処分を行う。 なお、大ホールが担ってきた役割については、文化施設に限らず公共施設を活用し必要に応じ機能強化を図り対応する。	後期

## 武雄市文化会館大ホール整備方針の見直しについて（案）

武雄市文化会館は、令和 5 年 3 月に策定した基本計画に基づき、新たな文化交流施設エリアとして整備を進めています。

新文化交流施設については、成人棟・集会棟・小ホール棟の解体後に建設を行い、令和 9 年春頃の開館を目指し計画どおり整備を進めています。

大ホールについては、改修による長寿命化を図る計画としていたが、概算工事費が物価高騰などにより大幅に増額となることなどを踏まえて、整備方針の見直しを行うこととした。

### 1. 武雄市文化会館大ホール整備にかかる経緯

- ・令和 2 年 8 月策定の公共施設等個別施設計画で、「大ホールは耐震補強工事をはじめとして長寿命化に必要な改修を行っていく」と明記。
- ・令和 3 年度に「大ホールについては機能維持程度の改修、新文化施設については建替え」と整備方針を決定。
- ・令和 5 年 3 月にエリア全体の整備に係る基本計画の策定を行い、総事業費を 55 億円程度と想定。

### 2. 整備方針の見直しの検討について

整備方針の見直しにあたり、事業費高騰による財政負担、大ホール棟の利用状況などの背景を踏まえ検討を行った。また、個別施設計画を策定した際に開催した市民会議や文化団体など関係団体、市民の方から意見聴取を実施した。

#### ○見直しに係る背景について

##### ① 大ホールの利用状況

- ・大ホール稼働率について H20 50.4% ⇒ H30 42.1% ⇒ R5 31.1% と減少。  
1000 人以上のイベントについても H30 28 件から R5 9 件と大幅に減となっている。

##### ② 近隣・周辺自治体の施設整備状況の変化

- ・県西部近隣 20 km に 1000 席を超えるホールはないが、周辺自治体では令和 2 年度の個別施設計画策定後、令和 5 年度に SAGA アリーナ(約 8400 席)や鹿島市民文化ホール(約 800 席)が開館。

##### ③ 整備に係る総事業費高騰による財政負担

- ・大ホール改修費が当初想定 20.9 億円より高騰し 29.3 億と大幅に増額の見込みとなる。これらを踏まえて総事業費が当初想定 55 億円から 69.3 億円と大幅に増額の見込みとなっている。加えて、改修後 30 年間の利用にあたり、修繕費が 12 億円程度必要となる。

### 3. 見直しによる新たな整備方針案について

大ホールについては、地域のシンボルとして機能維持程度の改修により、新施設と一体的な利用を図る方針としていたが、想定を超えた改修費の高騰及び今後 30 年の利用を図るにあたり、相当な維持管理費がかかり、市の財政にも大きな負担となる。

また、近年周辺市町に同規模程度の機能を有する施設が開館しており、稼働率の低下が見込まれる。

これらを踏まえて、大ホールについては、「長寿命化」の方針を見直し、「廃止・解体」とする。

なお、大ホールがこれまで担ってきた役割については、文化施設に限らず、他の公共施設の活用及び必要に応じて機能強化を図っていくことで対応したい。

### 4. これからの武雄の文化活動について

文化のまちづくり構想では、より身近な場所で文化を親しむことができる場の充実を図ることをうたっており、今後は更にそれを加速化させていく必要がある。

新たな文化の創造や出会いを生み出す新文化交流施設において、これまで文化活動に関わりのなかった人や若い世代に文化に触れ、楽しんでもらえる環境づくりを行うとともに、文化施設に限らず市内の他の公共施設において、大規模な催しを開催できるなど各施設の特性を活かしながら積極的に利用し、必要に応じて機能強化を図っていく。

これからは新文化交流施設を拠点にまち全体をステージとして捉え、創造・活動の場、交流の場となるよう広げていくことで、武雄の文化活動を更に発展させていきたい。